

第 44 回原子力安全専門委員会定例会
(結果概要)

原子力安全対策課

日時 : 平成 27 年 7 月 17 日 (金) 14 : 00~16:00

場所 : 福井県庁 10 階 1006 会議室

出席者 :

専門委員 : 中川委員長、三島委員、田島委員、泉委員、近藤委員
県 : (原子力安全対策課) 野路課長、伊藤参事 他

議題 :

1. 原子力発電所周辺の環境放射能調査報告について
平成 26 年度 (第 4 四半期分報告)
2. 発電所の運転および建設状況について
(平成 27 年 3 月~平成 27 年 6 月)

結果概要 :

議題 1 (原子力発電所周辺の環境放射能調査報告) について、次のような質疑があった。
議題 2 (発電所の運転および建設状況) については、特にコメントはなかった。資料については、次回の原子力環境安全管理協議会の場で配布予定である。

<議題 1 事務局説明概要>

- ・ 県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 浮遊じん放射能の測定結果は、いずれも天然放射能のレベルであった。
- ・ 海産食品の一部試料から、Cs - 134 が検出されたが、福島第一原子力発電所事故による影響と考えられる。
- ・ また、陸土、海水、および海底土の一部試料から Cs - 137 が検出されが、過去の核実験フォールアウト影響が主要因と考えられ、福島第一原子力発電所事故等による影響が僅かに加わったものと考えられる
- ・ 大気中水分および雨水から発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、環境安全上問題となるレベルと比べ、はるかに低い濃度であった。

<主な質疑>

Q. 敦賀の海産資料においてセシウム 134 が検出されたとのことだが、検出値は 0.0Bq/kg と記載されている。検出下限値はどのようになっているのか。

A. 検出された値は 0.02Bq/kg であり、検出限界は 0.019Bq/kg である。また、測定誤差

は±0.003Bq/kg となっており、誤差の範囲内であれば検出限界未満となる。誤差的には0.0Bq/kg は真の値としていえるレベルの測定は行っている。今回は、検出限界値以上の値が検出されているので、この結果を「ND（測定限界値未満）」と記載することはできない。

- Q. 説明を聞くと納得できるが、検出されたという結果だけを見た方がどのように受け止めるのか考える必要がある。
- A. 次回の原子力環境安全管理協議会などで報告する際には、留意して説明させていただく。

以 上